

身体性認知神経科学とリハビリテーションの臨床
Embodied-Cognitive Neuroscience and Clinical practice of Rehabilitation

DAY1 2017/11/04 (Sat)

			第1会場 中ホール	第2会場 小ホール	第3会場 102	ポスター会場 (107+108)	
9:00			受付				
9:30	9:50	20	学会長講演 木村正剛 「子どもの”脳のなかの身体”を育てる」				
9:50	10:40	50	教育講演 森岡周 「身体所有感と運動主体感の神経科学—リハビリテーションにおける比較学習モデルの意味とは何か」				
10:50	12:10	80	特別講演 河島則天 司会:宮本省三 「左手をとりもどすまで—身体存在と認識についての現象学的な試論—」				
12:20	12:40	20	総会	昼休み			
13:30	14:20	50	臨床討議[1] 話題提供者:唐沢彰太 「異なる様相を呈する失行症の病態分類—各々のタイプに対する特異的な訓練の立案について」 討議:唐沢彰太×信迫悟志	臨床討議[2] 話題提供者:大島埴生 「認知課題が”身体—自己”に及ぼす影響—症例の経過と身体経験に関する知見からの検討」 討議:大島埴生×大越友博	臨床討議[3] 話題提供者:小川勝 「麻痺を伴う失行症について—患者の経験に基づく絵カードの使用は有効か」 討議:小川勝×沖田学	ポスター貼り付け	
14:30	15:20	50	臨床討議[4] 話題提供者:大松聡子 「背側—腹側注意ネットワークの相互作用からみたUSNの回復過程における代償戦略と機能回復」 討議:大松聡子×安藤努	臨床討議[5] 話題提供者:高見宏祥 「強制把握を呈する患者の身体性—左前頭葉皮質下出血症例の病態解釈と回復プロセス」 討議:高見宏祥×玉木義規	臨床討議[6] 話題提供者:青木良磨 「パーキンソン病の姿勢障害とその身体性—遂行機能との関連性を読み解く」 討議:青木良磨×橋間葵		
15:40	16:30	50	臨床討議[7] 話題提供者:菅原紘子 「片麻痺の歩行における足部の圧情報構築はなぜ重視すべきか」 討議:菅原紘子×鶴埜益巳	臨床討議[8] 話題提供者:明神菜倫子 「失行症における上肢の到達機能—身体意識の形成メカニズムを考慮した治療介入」 討議:明神菜倫子×内倉清等	臨床討議[9] 話題提供者:木川田雅子 「言語療法における認知問題としての”文字”—その道具性の検討」 討議:木川田雅子×稲川良		
16:40	17:30	50	臨床討議[10] 話題提供者:加藤祐一 「在宅リハビリテーション利用者の環境と身体性の考察—行為空間形成と治療的介入について」 討議:加藤祐一×川見清豪	臨床討議[11] 話題提供者:木賊弘明 「身体運動と心的回転の相互作用—メンタルローテーションと物体方向性について」 討議:木賊弘明×河野正志	臨床討議[12] 話題提供者:壹岐伸弥 「身体表象の定量的評価は可能か—上肢ポインティングを用いた方法と言語記述の関連性」 討議:壹岐伸弥×安田真章		
17:40	18:10	30	映像講演 Carlo Perfetti 「リハビリテーションの世界を変える新しい作業仮説—その発見と発明のプロセス」				
19:30			レセプション				

			第1会場 中ホール	第2会場 小ホール	第3会場 102	ポスター会場 (107+108)
9:00			受付			
9:10	11:30	140				一般演題発表 09:10-10:20(70) 奇数番号 10:20-11:30(70) 偶数番号
11:40	12:40	60	市民公開講座 高橋昭彦 司会:木村正剛 「発達障害児の行為と身体性を理解するために」	臨床講義 本田慎一郎 司会:村上陽一 「身体性の病理が生み出す言語」	臨床報告 新開谷まゆき×木村絵梨 司会:池田耕治 「サントルソ認知神経リハビリテーションセンターの臨床」	
昼休み						
13:30	15:10	100	シンポジウム 「精神化された身体(minded body)のリハビリテーション」 園田義顕 「行為の空間とイメージおよびその記憶と想起における身体化された認知」 中村三夫×宮本省三 ×奥埜博之×木村正剛 司会:園田義顕 「認知とは何か?ベルフェッティの考える身体性とは何か?」			ポスター撤去
15:10			フィナーレ			

身体性認知神経科学とリハビリテーションの臨床

Embodied-Cognitive Neuroscience and Clinical practice of Rehabilitation

1 日目 2017 年 11 月 4 日 (土)

09:00 受付

09:30-09:50 学会長講演

『子どもの“脳の中の身体”を育てる』

講師：木村正剛（北海道立子ども総合医療・療育センター）

09:50-10:40 教育講演

『身体所有感と運動主体感の神経科学 - リハビリテーションにおける比較学習モデルの意味とは何か』

講師：森岡周（畿央大学）

10:50-12:10 特別講演

『左手をとりもどすまで - 身体存在と認識についての現象学的な試論 - 』

講師：河島則天（国立障害者リハビリテーションセンター研究所）

司会：宮本省三（高知医療学院）

12:20-12:40 総会

13:30-14:20 臨床討議（フォーラムディスカッション）[1][2][3] プレゼンター×モデレーター

[1] 異なる様相を呈する失行症の病態分類 - 各々のタイプに対する特異的な訓練の立案について（第1会場）

唐沢障太（脳梗塞リハビリセンター川崎）×信迫悟志（畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター）

[2] 認知課題が“身体-自己”に及ぼす影響 - 症例の経過と身体経験に関する知見からの検討（第2会場）

大島埴生（岡山リハビリテーション病院）×大越友博（芳賀赤十字病院）

[3] 麻痺を伴う失行症について？ 患者の経験に基づく絵カードの使用は有効か（第3会場）

小川勝（隠岐病院）×沖田学（愛宕病院）

14:30-15:20 臨床討議（フォーラムディスカッション）[4][5][6] プレゼンター×モデレーター

[4] 背側-腹側注意ネットワークの相互作用からみたUSNの回復過程における代償戦略と機能回復（第1会場）

大松聡子（国立障害者リハビリテーション研究所運動機能系障害研究部）×安藤努（文佑会原病院）

[5] 強握を呈する患者の身体性 - 左前頭葉皮質下出血症例の病態解釈と回復プロセス（第2会場）

高見宏祥（新札幌パウロ病院）×玉木義規（甲南病院）

[6] パーキンソン病の姿勢障害とその身体性 - 遂行機能との関連性を読み解く（第3会場）

青木良磨（登戸内科・脳神経クリニック）×橋間葵（文佑会原病院）

15:40-16:30 臨床討議（フォーラムディスカッション）[7][8][9] プレゼンター×モデレーター

[7] 片麻痺の歩行における足部の圧情報構築の必要性（第1会場）

菅原紘子（函館麦北病院）×鶴埜益巳（国立がん研究センター中央病院）

[8] 失行症における上肢の到達機能？ 身体意識の形成メカニズムを考慮した治療介入（第2会場）

明神菜倫子（永生クリニック）×内倉清等（リハビリ特化型デイサービス繋）

[9] 言語療法における認知問題としての「文字」 - その道具性の検討（第3会場）

木川田雅子（東北医科薬科大学）×稲川良（水戸メディカルカレッジ）

16:40-17:30 臨床討議（フォーラムディスカッション）[10][11][12] プレゼンター×モデレーター

[10] 在宅リハビリテーション利用者の環境と身体性の考察 - 行為空間形成と治療的介入について（第1会場）

加藤佑一（結ノ歩訪問看護ステーション）×川見清豪（リハビリ訪問看護ステーションファミリア）

[11] 身体運動と心的回転の相互作用？ メンタルローテーションと物体方向性について（第2会場）

木賊弘明（苫小牧日翔病院）×河野正志（村田病院）

[12] 身体表象の定量的評価は可能か？ 上肢ポインティングを用いた方法と言語記述の関連性（第3会場）

壹岐伸弥（川口脳神経外科リハビリクリニック）×安田真章（脳梗塞リハビリセンター）

17:40-18:10 映像講義

『リハビリテーションの世界を変える新しい作業仮説？ その発見と発明のプロセス？ 』

講師：Carlo Perfetti

19:30 レセプション

09:00 受付

09:10-11:30 一般演題発表

09:10-10:20 奇数番号

10:20-11:30 偶数番号

11:40-12:40 市民公開講座(第1会場)

『発達障害児の行為と身体性を理解するために』

講師:高橋昭彦(子どもの発達・学習を支援するリハビリテーション研究所)

司会:木村正剛(北海道立子ども総合医療・療育センター)

臨床講義(第2会場)

『身体性の病理が生み出す言語』

講師:本田慎一郎(守山市民病院)

司会:村上陽一(旭川三愛病院)

臨床報告(第3会場)

『サントルソ認知神経リハビリテーションセンターの臨床』

登壇者:新開谷まゆき(ながさわ整形外科)

木村絵梨(札幌溪仁会リハビリテーション病院)

司会:池田耕治(熊本総合医療リハビリテーション学院)

13:30-15:10 シンポジウム:精神化された身体(minded body)のリハビリテーション

『行為の空間とイメージおよびその記憶と想起における身体化された認知』

講師:園田義顕(高知医療学院)

『認知とは何か?ペルフェッティの考える身体性とは何か?』

シンポジスト:中村三夫(協同医書出版)

宮本省三(高知医療学院)

奥埜博之(摂南総合病院)

木村正剛(北海道立子ども総合医療・療育センター)

司会:園田義顕

15:10 フィナーレ